



## ごあいさつ

委員長 高見 佳澄

山形県PTA連合会母親委員会の活動に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。各郡・市PTAの母親委員会におかれましては、4年目となってもまだ収まりを見せないコロナ禍において、感染防止に努めながらできる限りの活動をしていただきありがとうございます。

県P連の母親委員会は「いのちの尊さ 大切さ」のテーマのもと、各郡・市Pの代表の方々と子供たちの様子や、各郡・市の母親委員会の活動について情報交換を行っています。視察研修会では山形市P連の母親委員と交流を図り、山形市PTA連合会と山形市PTA連合会母親委員会共催の「いのちの大切さ学習会」に参加し「発達障害」について学びました。ぜひ皆様にもご一読いただき、情報を共有していただければ幸いです。

男女平等の観点や、生徒数の減少に伴う役員のなり手の不足、コロナウイルス感染防止によるPTA活動が縮小されている今、母親委員が一番に削られそうになる委員会です。しかし、山形県は多くのお父さん方がPTA会長として活躍してくださる県です。それゆえ、母親委員会は、子供にとって一番身近な存在である“お母さんの想い”を聞くことができる大切な場と捉え、母親同士のネットワークの素晴らしさや母親としての細やかな心づかいなどの利点を生かし、父親のみならず子育てに関わる方々と「子供たちのために何ができるのか」「お母さんだから・女性だからこそ気付き発信できること」を共に考え、活動につなげていきたいと思ひます。

どんなに時代が変わろうとも、子供に必要なのは、私たちの無償の愛とスキンシップということに変わりはないと思ひます。また、子供たちの抱えている課題を解決するには、親同士のつながりや、情報を共有することが重要ではないかと思ひます。このような時だからこそ、子供との「かかわり」と親同士の「つながり」を大切にしながら、母親委員会は活動してまいりたいと思ひます。

## 《山形市》

- ・テーマ「いのちの尊さ大切さ」  
～かかわる喜びつながる心 守ろう私と家族の笑顔～
- ・定例母親委員会3回（5/12・6/23・2/13）
- ・拡大母親委員会1回  
研修：「いのちの大切さ学習会」（県P親学補助事業利用）  
講師：花輪敏男氏（FR教育臨床研究所所長）
- ・“親学”家庭教育視察研修（コパル、少年鑑別支所視察）
- ・母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.27発行

## 《西置賜地区》

- ・地区母親委員会（中止）
- ・全国研究大会への協力と参加

## 《酒田飽海》

- ・母親委員会（情報交換）
- ・全国研究大会山形大会への協力

## 《上山市》

- ・母親委員会1回
- ・保護者研修会（全国研究大会山形大会への参加）

## 《米沢市》

- ・定例母親委員会2回（書面・2月）
- \*活動報告・情報交換等



【令和4年度 母親委員会】

## 《鶴岡市》

- ・鶴岡市P連事務局会・常任委員会への参加（正副委員長のみ参加）
- ・全国研究大会山形大会への参加

## 《東置賜地区》

- ・地区Pでは組織化されず活動なし（単位P3校での組織・活動あり）

## 《東田川郡》

- ・定例母親委員会2回
- \*活動報告
- \*情報交換等

## 各地区の活動報告



## 《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会（中止）
- ・母の集い（中止）
- ・全国研究大会山形大会への協力と参加

## 《最上地区》

- ・地区母親委員会1回（講演・演習）
- ・代表母親委員会2回
- ・母親委員会だより「かあちゃんホットライン」発行

## 《北村山》

- ・村山市P：委員会/読み聞かせ/おたより発行
- ・尾花沢市P：委員会/おたより発行
- ・大石田町P：母親交流会/「母親伝言板」発行
- ・東根市P：組織なし

## 《西村山》

- ・母親委員会（3回）
- ・代表委員会（5回）研修：「部活動ってどうなるの？」
- ・母親委員会だより
- ・全国研究大会山形大会への協力と参加



# 第70回日本PTA全国研究大会山形大会に参加して



8月26日(金)・27日(土)

## ・・・酒田飽海PTA連合会・・・

### 《日本PTA全国研究大会山形大会～サテライト会場～》

第70回日本PTA全国研究大会が、2日間にわたり、山形市を中心に山形県全域で開催されました。日本海側にある庄内地域の酒田市民会館希望ホールは、第2分科会の会場であり27日の全体会の様子を見ることのできるサテライト会場でもありました。分科会事務局が酒田市立第六中学校であることから、3年前から様々な準備をしてきました。まず、全国大会に向けて、第六中学校の母親委員長は3年間継続で就任し、自校と酒田飽海P連母親委員会の活動をしながら、全国大会について事務局と情報を共有し、会議や打ち合わせ等、共に準備をしてきました。

継続して委員長を務めたことで、大会の概要や役割などについて年度替わりの母親委員の皆様にもスムーズに引継ぐことができましたし、母親委員会以外の役員の皆様へも伝達・共有を滞らず行うことができ会議や打ち合わせの進行等準備に尽力することができました。

研究大会前に、庄内地域は新型コロナウイルス感染症が蔓延し、大会の中止が危惧されましたが、無事開催することができ両日とも多くの方に参加していただきました。



山形大会は「人と人のつながりを体感しよう！～あがりっしゅい精神の山形から～」という大会スローガンを掲げ、「つながり」をキーワードとして挙げていました。「サテライトで本会場の様子が知れてよかった。」「まるで目の前でコンサートを聴いたようで嬉しかった。」「いま、同じ時間に、あちらではこんなことをしているんだと感じられてよかった。」など、「つながり」を感じられた、と感想をいただきました。3年前から何度も会議で集まり、準備をしてきて良かったと心から思いました。

当日は、酒田飽海地区の小中学校の役員の方々とは協力して運営することができました。With コロナの社会となり、人と人のつながりが感じにくい昨今では、久しぶりに多くの人と触れ合う素晴らしい機会となりました。改めてPTA活動の大切さ、人と人、家庭・学校・地域のつながりの大切さ、これからの活動の在り方や社会教育に果たす役割について考える機会をいただきました。

酒田飽海P：佐々木みどり



## ・・・上山市PTA連合協議会・・・

### 《日本PTA全国研究大会に参加して》

やまぎん県民ホールで行われた特別第2分科会の受付係で参加させていただきました。全国各地から大勢の方が来場され、大会の大きさを改めて感じ、多くの方の笑顔と「ありがとう」という言葉にとても胸が熱くなりました。

特別第2分科会の研究課題は「メディア・リテラシー育成における学校教育と家庭教育の役割」でした。分科会に参加された方の感想には、

- ・スマホやパソコン、テレビ等から多くの情報を簡単に得られるが、その情報を鵜呑みにせず正しく判断し使っていく力を育てていくことが大事だということ学んだ。
- ・自分たちが子供の頃より、情報量が格段に増えている。親も子供たちと同じように目で見て体験するなど、理解を深め共に成長していくことが大事だと感じた。

といったものがありました。

家庭では、学びや娯楽のツールになる情報端末について、境界線の引き方やルール作りに難しさを感じるがありますが、メディア・リテラシーやコントロールについて親も子供と一緒に学び、学校と家庭が連携し情報を共有することでICTの活用がより充実した学びにつながると感じました。 上山市P：齋藤さゆり



## ・・・天童・東村山地区PTA連合会・・・

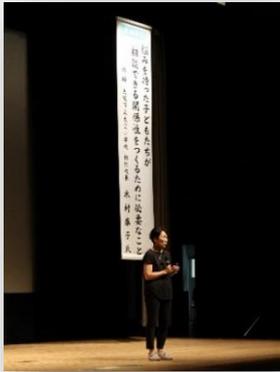
### 《日本PTA全国研究大会 第8分科会に参加して》

私は、寒河江市市民文化会館で開催された、第8分科会（環境・安全）に一般参加させていただきました。

会場は、座席が県外在住と県内在住者に分かれていたり、看護師の方が待機していたり、コロナ感染対策が行われ安心することができました。また、スタッフの方々の歓迎ムードにおもてなしの気持ちが感じられ、温かい気持ちになりました。歓迎アトラクションは、寒河江中部小学校金管バンドの演奏です。コロナ禍にあっても工夫して練習したことが感じられる見事な演奏で、私達大人は子供たちの輝かしい姿にひたすら感激の拍手を送りました。

講演会は前半が基調講演、後半はパネルディスカッション形式でした。

前半の基調講演は、大阪市立大空小学校の初代校長木村氏による、ドキュメンタリー映画「みんなの学校」についての講話で、困難な養育環境に置かれた少年を地域のみんで支えた、という内容でした。木村氏は、少年の小学校卒業のその後も触れています。彼はその後、更に心身ともに傷つく体験をします。それでも成人した彼は母校の小学校の活動を支援する側になりました。私は、小学校の時に受けた愛情やサポートが彼の栄養になり、生きていく力になったのではないかと考えました。そして私も将来は地域の子供たちから甘えてもらえるようなおばちゃんになりたいと思いました。



後半のパネルディスカッションでは、フリースクールの理事長の江川氏が実践発表をされました。その後、山形大学教授の安藤氏がコーディネーター、木村氏、江川氏、山形市議会議員松井氏、宮城県PTA連合会副会長浅野氏がパネリストとして、それぞれの地元での活動や重視している事を時間の限り熱くお話し下さいました。

約4時間のプログラムはどの内容も素晴らしいものでした。日々の子育ては良い意味でも悪い意味でも驚かされることが多く、エネルギーを使い、時には、充電が必要になります。当日の会場には、コロナ禍にも関わらず、多くの先生や保護者がいました。県内10箇所の会場や配信を見た方も含めると本当に多くの方がこの大会に関わっていることになります。子育てに熱い思いを持っている人々の多さに勇気づけられ、しっかり充電ができました。最後になりますが、大会が無事成功をおさめ、開催にご尽力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

天童・東村山地区P：海鋒晴美

## ・・・西村山PTA連合会母親委員会の活動・・・

令和5年1月14日(土) 西川町交流センター「あいべ」

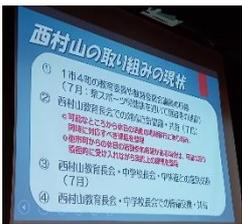
### テーマ：子供たちの今を考える「親学」フォーラム

#### 『部活動地域移行について』～部活動ってどうなるの?～

西村山PTA連合会母親委員会では、「部活動ってどうなるの?」と題し、休日部活動の地域移行化をテーマに研修会を企画しました。1市4町のPTA会員ばかりではなく行政担当者の方からのご参加もいただき、今まさに子供たちの生活環境を大きく揺るがすような変革の時期において、親として、地域としてどう向き合っていくかを学ぶことが出来た有意義な研修会となりました。

「基調報告」として、各市町の抱える部活動及びスポーツ環境の現状や課題を、各単P代表5名より発表していただき、またそこで浮き彫りとなった先の見えない不安へのアンサーとなるような内容の「全体講演」を、西村山地区教育長会議を代表して西川町教育長 前田氏にご講義いただきました。更に、「事例講演」として、陸上クラブの監督・代表として地域の子供たちのスポーツ環境の現状を、支える側の視点から金子氏、全国規模で活躍するカヌー一部を行政の立場からも支える取り組みをしている西川町の長岡氏、両2名によるお話も参加者の関心を大いに刺激してくださいました。「地域力」「親の学び」が、子供たちの未来を支えていく資源となる事を強く考えさせられた時間となりました。代表者会議の役員の方や事務局の先生方には、企画・準備の段階から積極的に事業運営にご尽力いただきました。大きな事業を成し得た充実感を、共に分かち合うことができ大きな喜びを感じている次第です。

西村山P：高橋美保



# 「いのちの大切さ学習会」

令和4年11月5日(土)

演題：「発達障害とは」～正しい理解と正しい対応のために～

講師：花輪 敏男 氏 (FR教育臨床研究所 所長)



## 正しい理解 (発達障害：LD/ADHD/自閉症スペクトラム)

- ♥ 発達障害は、脳の働きに偏りがある「脳の機能障害」であり、躰などの育て方の問題や家庭環境の問題ではない。障害のある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションが苦手。
- ♥ なぜ、ノートを取らないのか、教科書を開けないのか、掃除をしないのか、給食当番をやらないのか、並べないのか…。「しない」のではなく、障害がある子供にとっては、どうしたらよいかわからないから「できない」のだ。
- ♥ 「できない」理由…例えば
  - 先生：「教科書の15ページを開いてください」 ⇒ 私：「えっ？キョウカショって何？」「私が持っているのは国語の本なのに」「表紙にキョウカショって書いてない」
  - 先生：「順番に並びなさい」 ⇒ 私：「名前の順？背の順？早いもの順？…分からない」
- ♥ 発達障害のある人が、個々の能力を伸ばし、社会の中で自立していくためには、子供のうちからの「気づき」と「適切なサポート」そして、私たち一人ひとりの発達障害への理解が必要です。

## 正しい対応 (合理的配慮)

- ♥ 教育環境の中でも家庭でも、発達障害のある人がどのように困っているのか、脳の働きに合うように対応する「合理的配慮」を示し、障害者がきちんと判断・行動できるような具体的な指示や支援の方法を心掛け実践する。発達障害のある子供だけでなく、障害のない全ての人にも有効である。
- 刺激を調整すること…動きや音等の刺激の影響を強く受ける人⇒カーテンや衝立をつける、曇りガラスの窓にする
- スケジュールやモジュール化を図る…終了後「二重取り消し線」を付ける、読む〇分・まとめ〇分とモジュール化する
- ルーティンを決める…教室に入るときは左足から入る
- 視覚化を図りゴールを示す…この容器のこの線までいっぱいになったら終わり(見てわかるような指示とゴール)
- 本人にとって分かりやすい指示…「赤いパック2つ取って」、「左手の人差し指で電気のスイッチを切って」

## 視察研修「いのちの大切さ学習会」…感想…

LD や ADHD, ASD といった発達障害という言葉がずいぶんメディアで聞かれるようになりました。30人の普通学級だと2人程度の発達障害の子供がいることや、現在高校入試や大学入学共通テスト、就職に際し、発達障害に対する特別な配慮がなされていることを知り、私たちが「障害のある子供たちがどのようなことに困っていて、どのように対応すると安心できるか」について理解することは、特別なことではないのだと感じました。

そして、花輪先生ご自身が「ADHDである自分は、旅行の際に荷物は1つにするようにしている。」と対応策を講じている話をしてくださり、自分の障害の特性を受けとめ、障害とともに生きていく方法を見つけていくことの大切さについても知ることができました。

「薬は教育しやすい状態にするもの。教育こそ最大の治療なり。」と最後にお話されたことが強く印象に残りました。

西村山P：参加者

## 視察研修「いのちの大切さ学習会」…感想…

こちらから見れば、「しない」ように見えることが、障害がある子供たちにとっては、どうしたらよいかわからないから「できない」のだというお話でした。その子供たちがどのようなことで困っているか、どのように対応していけば良いのかについての支援の仕方は発達障害のある子供たちにだけでなく、全ての人に有効であるということでした。発達障害について理解を深めることができありがとうございました。

東置賜P：参加者

## 編集委員

山形市：高見佳澄/西置賜：渡部香陽子  
上市市：齋藤さゆり/西村山：高橋美保  
天童・東村山：海鋒晴美



## あとがき

2022年「第70回日本PTA全国研究大会山形大会」という大きな大会が本県で開催されました。大変素晴らしい大会となりましたが、運営に携わったPTA会員の皆様は企画準備などご苦労されたかと推察します。しかし、「子供たちの未来がさらに輝かしいものになるよう学校・保護者・地域が一丸となってさらに歩みを進めよう！」といういいチャンスでもあったのではないかと思います。私たち母親委員会も、子供たちの健やかな成長のためにできることを一緒に考えて、さらに発展できれば…と心から願います。

西置賜P：渡部香陽子